

1年 音楽科学習指導案

授業者

1. 題材名「おいしいおべんとうをつくろう」(音楽づくり)

2. 題材の目標

○おべんとうに入りたいおかずを選び、拍に合うリズムを考える活動を通して、言葉の文字数によるリズムの違いに気づき、即興的にリズムを叩いたりつなげたりして表現することができる。

[知識及び技能]

○おべんとうに入りたいおかずを選び、拍に合うリズムを考える活動を通して、リズムや拍を意識し、音楽づくりの発想を得る。

[思考力、判断力、表現力等]

○おべんとうに入りたいおかずを選び、拍に合うリズムを考える活動を通して、リズムや拍に興味をもち、楽しんで音楽活動に取り組もうとしている。

[学びに向かう力、人間性等]

[共通事項] **リズム、拍**

3. 子どもと題材

本学級の子どもは、入学してから様々なことに興味を示し、どの授業においても自分の思いをもっている。また、その思いを表現しようとしたり、思いを実現しようと思いを働かせたりしている。その中でも、生活科の学校探検では、学校内の様々な場所に興味をもち、授業中だけでなく休み時間にも自主的に探検へ出かける姿が見られ、とても意欲的に取り組んだ。一度目の探検のあと、「特別教室の中に何があるのか見てみたい」という意見が多かったため、音楽室、家庭科室、理科室、図工室、図書館、校長室などの特別教室の中を探検した。教室の中に何があるのかという視点だけではなく、「第1理科室と第2理科室の椅子や机の色が違うのはなぜだろう」「どの教室の椅子も背もたれがついていない」など、他の教室にあるものと比較して考える姿が見られた。また、図工室、図書館、校長室へは、探検バックを持ってメモを取りながらの探検を行った。気付いたことを言葉でメモする子ども、見た物をイラストで描く子ども、教室の物の配置図を描く子どもなど、様々な表現方法が見られた。さらに、休み時間に再び新しいメモ用紙を持って探検へ行き、気付いたことをメモして帰ってくるなど、気になることはとことん調べたいと考えている子どもがいた。

また、運動会の学年種目(大玉転がし)の練習では、大玉キャプテンを中心にどうすれば勝てるのかについて、何度も作戦会議を行った。「みんなで力を合わせたい」「絶対に勝ちたい」という気持ち強い子どもが多く、家で作戦を考えてきて友達に説明したり、キャプテンの話をもとにイラストを使って表現したりする姿が見られた。大玉を転がす3人組の組み方については、「足の速さが同じじゃないと追いかけてしまう子がでてくる」という意見があり、「3人が必ず大玉に触る」というルールを守った上でどうやったら勝てるのかについて思考を働かせたり、走順についても、タイムをもとに「一走目のチームが速くないと後からカーブで抜かすのが大変」「アンカーは最後に抜かすために一番速いチームがいい」など、理由も考えながら話し合ったりする姿が見られた。

国語の「ひらがな」の学習では、くじで引いたひらがな一文字が頭文字で始まる言葉をグループで出し合う活動を行った。グループで活動する学習は初めてだったが、言葉をいくつも思いついた子どもが他の子どもへ伝える姿や友達が出した言葉と関連させた言葉を伝える姿などが見られた。例えば、「むし」という言葉を聞いた子どもが「むしかご」「むしめがね」と言葉を連想させて伝えていた。今回の活動では多くの言葉を書き出したグループの勝ちというルールだったため、必死になって言葉を考え、伝えようとする姿が多かった。

このように、様々な授業を通して、「もっと知りたい」「分かるようになりたい」「自分の考えを伝えたい」と自分の思いをもってそれを表現したり、「他と違うのはなぜだろう」「同じようにやればうまくできる」と思考を働かせたりする姿がある。しかし、勝ち負けを競うような活動や学級全員での話し合い活

動以外では、「伝えたい」相手は教師に対してであり、友達に伝えたい、友達に分かってもらいたいという思いは少ないように感じる。それは、友達の考えから新しい発想を得たり、友達の考えと自分の考えを比較してよりよい考えを導いたりした経験が少ないからだろう。だからこそ、自分の思いをもち、思考を働かせる姿を見せている子どもに、友達の考えにふれることで新しい発想を得る経験や友達と思いをぶつけ合いよりよいものをつくり出す経験をし、自分の思いだけでなく友達の思いを受けとめることでさらに自分の思いを表現できるようになってほしいと願っている。

本題材は、音楽の様々なリズムを感じとったり表現したりするための根幹となる「拍」に焦点をあてた学習を行う。前題材の「フルーツランド」では、教師が提示した3文字のフルーツを拍を感じながら言葉で言ったりリズムを叩いたりする活動を行った。「いちご・ばなな・すいか」といった3文字のフルーツを提示したが、「もも・さくらんぼ・ドラゴンフルーツ」など、3文字以外のフルーツはどのように言ったら拍に合うかを考える子どももおり、拍を感じながら言葉を言ったりリズムを叩いたりすることには抵抗がないように感じた。

しかし、中には、拍に合わせることができなかつたり、どのようにリズムを叩けばいいのか分からなかつたりとリズムを叩くことに苦手意識がある子どももいる。本題材で扱う「おべんとうばこの歌」は、子どもにとって聴き馴染みのある曲であることはもちろん、手遊びなども交えながら楽しく活動できる教材である。そして、実際に曲の歌詞に出てくる食べ物でお弁当をつくってみようとする、子どもにとってはあまり人気のない食べ物が多く、「おいしそう」と感じる子どもは少ないと考える。そのため、「自分たちだけのおべんとうばこの歌をつくろう」という課題に取り組みやすいのではないかと考えた。

また、本校は週に1回お弁当の日が設定されており、お弁当は子どもにとって身近な存在である。リズムを使った音楽づくりを初めて行う子どもにとって、抵抗なく取り組める題材であると同時に、「これを入れたい」「こんなお弁当だったらいいな」など自分の思いをもちやすい題材であると考えた。今回は個人で音楽づくりを行うのではなく、グループで一つのおべんとうの歌をつくる活動を行うことで、友達の思いにふれ、自分の思いと比較したり新しい発想を得たりすることができるのではないかと考えた。同じ言葉でもリズムが違う場面や文字数が多くなりどのようなリズムにすればいいのかを相談する場面など、自然と友達と関わりながら活動ができるだろう。このような活動により、言葉の文字数によるリズムの違いに気付き、即興的にリズムを叩いたりつなげたりして表現することができたり、リズムや拍を意識し、音楽づくりの発想を得たりできると考える。

4. 本題材における『その子らしく学ぶ』

本校音楽科部では、「自分の目指す表現に向かって、音や音楽に関わったり向き合ったりと試行錯誤していく姿」が音楽科における『その子らしく学ぶ』であると捉えている。

第①時で、「おべんとうばこの歌」の歌詞に出てくる食べ物のイラストを見ると、普段自分たちが食べているおべんとうとの違いに気付き、「おべんとうのおかずを変えた歌をつくりたい」という思いをもつだろう。子どもにとっておべんとうは身近な存在であり、自分事として考えやすいことはもちろん、人によっておべんとうに入れたいおかずの好みも変わってくるため、一人ひとりがどんなおべんとうをつくりたいかを考え、「こんなおべんとうをつくりたい」と意欲的に取り組んでいこう。また、前題材の「フルーツランド」の活動を想起し、3文字と5文字の言葉とリズムを拍に合わせて練習していこう。

第②時では、前時で考えた自分を入れたいおべんとうのおかずをリズムで表現する活動を行う。3文字や5文字の言葉は前題材の経験から容易にリズム打ちすることができるが、4文字や6文字の言葉をどのようなリズムで表現するかについては、何度も拍に合わせて手拍子をしながら試行錯誤するだろう。また、入れたいおかずが友達と同じであっても叩くリズムが違うという場面に遭遇した時、より一層リズムに対して前のめりになり、どちらのリズムで叩くのがよいかを自分で判断し選択していこう。

第③時では、自分で考えたリズムを同じグループの友達とつなげ、「自分たちだけのおべんとうばこの歌」をつくる活動を行う。その際、自分の叩いたリズムやグループでのリズムのつなげ方について試

行錯誤することができるように、ICT 機器を活用し、自分たちの歌を録音する。録音することで自分たちの歌を客観的に聴くことができたり、拍にリズムが合っていないことに気付いたりすることができるだろう。また、友達が考えたリズムを聴き、自らも叩く活動をする中で、「このリズムのほうがいい」「このリズムだと叩きにくい」など、自分たちのつくりたいおべんとうばこの歌（目指す表現）をよりよいものにしていこうとするだろう。これらの活動により、友達と思いをぶつけ合いよりよいものをつくりだす経験や友達の考えにふれることで新しい発想を得る経験をすることができるだろう。

第④時では、それぞれのグループが考えた「おべんとうばこの歌」を聴き合う活動を行う。聴き合う際は、自分たちがつくった歌と比べながら聴き、「拍」や「リズム」を意識しながら鑑賞をする。そうすることで、「同じおかずが2回くり返されてでてきたよ」「3文字、4文字5文字の順番でてきたよ」など、「リズム」や「反復」などの音楽的要素に着目して聴くことができるだろう。また、自分たちの思いを表現する活動を通して、「自分たちで音楽をつくるって楽しい」「リズムがいろいろ出てきて面白い」「自分たちだけのおべんとうばこの歌がつくれた」と振り返ることができるだろう。それにより、「別の音楽もつくってみたい」「おかず以外のリズムも考えられそうだ」と音楽づくりの活動に対して意欲的に向かっていくだろう。

5. 題材構想（全4時間扱い／本時は第③時）

<教師の投げかけ>

子どもの表れ

最終時における子どもの表れ

○教師の働きかけ

① < おべんとうばこの歌を歌おう >

- ・幼稚園の時に歌ったことがあるよ。
- ・手遊びもつけて歌ったよ。
- ・「ふき」ってどんな食べ物なんだろう。
- ・おべんとうばこの歌に出てくるおべんとうのおかずはあまりおいしくなさそうだな。
- ・もっとおいしいおべんとうにならないかな。

< 自分たちだけのおべんとう（おべんとうばこの歌）をつくらう >

- ・いつもお弁当に何が入っていたかな。
- ・ぼくは、「トマト」を絶対入れたいな。
- ・みんなはどんなおかずを入れたいと思っているのかな。
- ・自分たちだけのお弁当づくりが楽しみ。

< 言葉に合わせてリズムを叩こう >

- ・「いちご」と「ばなな」のリズムは三文字だから同じだったね。
- ・「おむらいす」のリズムは少し叩きにくいよ。
- ・わたしの入れたい「からあげ」はどんなリズムになるんだろう。
- ・みんなの入れたいおかずのリズムをつなげていけばいいんだね。
- ・はやくおべんとうづくりをやりたくなったよ。

○初めての音楽づくりに抵抗なく取り組めるように、子どもに聴き馴染みのある曲を導入で扱う。

○おべんとうのおかずを考える活動につなげるために、「おべんとうばこの歌」の歌詞に出てくる食べ物をイラストで提示する。

○「こんな歌をつくりたい」という思いをもたせるために、普段食べているおべんとうのおかずと比較できるよう板書を工夫する。

○言葉とリズムが一致しやすくなるよう、教科書に載っているイラストのリズムを拍に合わせて叩く練習をする。

○5文字のリズムに慣れるために、は何度もまねっこリズムを行う。

○4文字、6文字の言葉は次回グループで考えさせるためにこの時間は全体では扱わない。

② < おべんとうに入りたいおかずのリズムをかんがえよう >

<ul style="list-style-type: none"> ・「ハンバーグ」を入れよう。 ・「たたたん たん (うん)」のリズムと「たたた たん (うん)」のリズムができそうだよ。 ・どっちのリズムにしたらいいかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「からあげ」を入れよう。 ・「ばなな」や「えびふらい」と比べてリズムを考えるのが難しいよ。 ・どうしても拍に合わないよ。 ・入れるのをやめようかな。
<ul style="list-style-type: none"> ・「こんにゃくゼリー」をデザートでつけたいよ。 ・文字が多くてリズムが難しい。 ・みんなで叩くのが難しいな。 ・「ゼリー」に変えるのはどうかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いちご」を入れよう。 ・同じグループの友達も「いちご」を入れたいって言うてるよ。 ・「いちご」「いちご」ってくりかえしを使おうかな。

< おかずの順番を考えてリズムをつなげてみよう >

<ul style="list-style-type: none"> ・まずはみんなでリズムを叩いてみよう。 ・つなげて叩いてみるとリズムが合わないな。 ・食べ物の順番を変えたらどうかな。 ・何回も練習してみよう。

③ (本時) < おいしいおべんとう (おべんとうばこの歌) をつくろう >

<ul style="list-style-type: none"> ・この前考えたリズムをみんなで拍に合わせて叩いてみよう。 ・難しいリズムはもっと練習したいよ。 ・おかずの順番はどうしようかな。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「からあげ」のリズムを自分は「たんたた たん (うん)」で考えたけど、友達は「たたんた たん (うん)」だった。どっちのリズムにしようかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「チキンナゲット」や「たこさんウインナー」を入れたいと思ったけど、リズムが思いつかないよ。同じグループの友達に相談してみようかな。

< 自分たちの歌を録音して聴いてみよう >

<ul style="list-style-type: none"> ・拍に合わないからリズムを変えたいよ。 ・「からあげ」は2個入れたいからくりかえしてみたらどうかな。 ・最初がおにぎりから始まるから、そのあと、おかず、デザートにリズムをつなげたほうがいいと思ったよ。 ・「ミートボール」のリズムがあっていないからもう少し練習しよう。 ・自分たちだけのおべんとうばこの歌が完成したよ。 ・〇〇さんの考えたリズムが叩きやすくてすてきだね。 ・自分たちのつくった歌をみんなに聴いてもらいたいな。 ・他のグループの歌はどうなっているか聴いてみたいな。

- 自分の入りたいおかずのリズムを考える時間を確保するために、本時までに入りたいおかずを考えてくるように伝える。
- 同じ文字数の言葉でも人によって叩くリズムが違うことに気付けるように、グループでリズムを確認し合うように声掛けをする。
- 楽しくリズムを考えることができるように、4文字や6文字の言葉で悩んでいる児童のグループにヒントを与える。
- リズムが決まってきたグループは、言葉のつなげ方を考え始められるように、どの順番で歌うのかがわかりやすいワークシートを使う。

- 拍を感じるができるように、キーボードの音を流す。
- リズムの違いに気付くことができるように、自分の考えたリズムをグループの友達と確認するよう声掛けをする。
- できているかどうか確かめられるように、練習を録音しておく。
- 自分たちの録音を聴きながら、リズムのつなげ方が工夫できるように、何度も録音を聴くように声掛けをする。
- リズムを叩くのが難しい子どもに対しては、友達の叩くリズムをよく聴いたり、ゆっくりの速度で確認したりするよう声掛けをする。

④ < つくったおべんとうばこの歌を発表しよう。 >

- ・自分たちのつくった歌を練習しよう。
- ・他のグループのおべんとうの歌を聴くのが楽しみだな。
- ・おいしいおべんとうばこの歌をつくることができたよ。

・〇〇さんたちのグループは自分たちと同じ「からあげ」が入っていたけど、リズムが違ったな。

・〇〇さんたちのグループは早口言葉みたいな「たこさんウインナー」が入っていたけど、拍にちゃんと合っていてすごかったよ。

・〇〇さんたちのグループは、おにぎり⇒おかず⇒デザート順番でリズムをつなげたみたい。そんな考えは思いつかなかったな。

・〇〇さんたちのグループのリズムと自分たちがつくったリズムがよく似ていたよ。別々につくったはずなのに面白いな。

- ・グループのみんなでリズムを考えるのが楽しかった。
- ・自分の入れたいおかずが入ったおべんとうの歌ができてうれしい。
- ・自分たちで音楽をつくるのって楽しい。
- ・友達のグループのリズムの叩き方がよかったよ。
- ・もっと他の言葉でもリズムを叩いてみたいな。

○練習の時間を十分に確保する。

○聴き合う時は、リズムの叩き方やリズムのつなげ方でよかったところを見つけるように聴くときの視点をはっきりさせる。

○どんなおかずを入れようと思ったのか分かるように、発表の際には、全体にその班のワークシートを提示する。

○グループで工夫したことが分かるように、聴いて欲しいポイントを伝えさせる。

○音楽づくりの達成感や満足感を感じることができるよう、子ども同士で感想を伝え合うとともに、教師からも各グループの良かった点を伝える。